

人類がこの地球上に現れたのは今から二百万年前、日本列島に人が住み始めたのは三万年前とも十万年前ともいわれています。

現在、都留市域における最古の居住者は約三万二千年前の「先土器時代」と考えられています。彼らは、土器を使う縄文時代以前から、打製石器を用いての狩猟採集生活を営んでいました。食料となつたのは、日本列島が大陸と陸続きになつたときに渡ってきた北方系のマンモス象、南方系のナウマン象、オオツノジカ、毛サイなどの大型哺乳動物でした。富士山の東麓にあたり、桂川の形成する渓谷と森林に囲まれた豊かな自然が広がる都留市域は動物の棲息に適し、水と食料に恵まれたこの地に人類が獲物を追いながら暮らしたのも不思議ではありません。

しかし、市内において先土器時代の遺跡の発見は少なく、現在のところまだ大幡川断崖の遺跡と大野の「一杯窪遺跡」の二か所だけです。一杯窪遺跡からは石器製作跡と考えられる遺構が発見され、そこから石器の素材となる多量の縦長の剥片とその母石である石核などが出土しています。

人が住み始めた頃

この遺跡は先土器時代でも古い年代に属し、約三万二千年前に生きた都留市域最古の居住者の存在を教えてくれる貴重な遺跡です。



●一杯窪遺跡の石器
代表的なものとしては、切る・突く・削るなどのナイフ型石器、突く・刺すなどの尖頭器、複数にして切る・突くなどの細石器など。

